

資源管理型漁業の先進地視察について

1. 目 的

本県は、平成5年から重要資源管理型漁業の漁業種類にソデイカ漁業を選定し現在検討委員会を設置して管理方針の策定と、事業の円滑な実施を図っているところであるが、アオリイカ資源の管理型漁業に取り組んでいる京都府ならびに漁協系統、漁業者の取り組み状況を把握し、ソデイカ資源管理のより効果的な実施に向けて視察交流を実施した。

2. 期 日

平成6年3月22日～24日

参加者：県漁連 米須清一・上原正三郎

普及所 長嶺 巖

3. 視察先

- (1) 京都府水産事務所
- (2) 成生漁協

4. 京都府の漁業の概要（京都府水産事務所説明）

京都府は、日本海に面した海岸線150kmの海域に小規模の22漁協が点在し、主な漁業種類は沖合の巻き網、底曳網、沿岸の定置網、魚類、真珠養殖である。

漁業者数は1,900名、漁獲量は66,713トン、金額にして80億1,900万円（平成3年実績）でこのうち、マイワシが全体の約80%をしめている。

特に、定置網漁業は明治38年から操業されて、大型定置網が50統、個人経営の小型定置網が150統と沿岸漁業の主力漁業となっており、大型定置網はほとんどが漁協自営である。

各単協には市場はなく、京都府漁連の産地市場3カ所にトラック搬送してセリにかけ一元集荷方式が取られており、魚価の安定、系統利用が十分生かされて協同組合運動が活発な地域である。

（資料：京都府の水産参照）

京都府における資源管理型漁業としては、日本

海ズワイガニの資源管理をはじめ、平成5年度から、地先資源培養管理型漁業の対象魚網にアオリイカを選定し、成生漁協の2地区で取り組んでいる。資源管理の対象魚種にアオリイカを選定した理由は、①大規模な季節回遊をしない。②成長が早く孵化後2～3カ月で商品サイズまで成長する。③生活領域が極沿岸で地先で漁獲されるものが大部分であるとの理由から選定したとのことである。

ソデイカ漁業については、日本海側の6漁協が8月末から12月上旬までタル流し漁法で操業していたが、平成3年以降ソデイカの水揚げがなく、現在は漁模様をみるため一週間程出漁して中止するパターンが続いているようである。

ソデイカの資源管理については、5トン未満の小型船による操業で自由漁業のため特に規制処置はとっていないとのこと。

5. 京都府舞鶴市成生地区の概要

成生地区は京都府の若狭湾北部、福井県との県境に位置し人口は80名で24世帯全員が漁業に従事する純漁村である。

成生漁協は、伊根町漁協から、明治39年に定置網漁業を導入して以来今日まで、定置網漁業が村の基幹産業として取り組まれているが、近年は若者が舞鶴市の工場に勤にでて漁業後継者不足に悩んでいるようである。

6. 漁協及び漁業の概要

成生漁協の組合員は1戸2名制をとり、22世帯41名の組合員で構成されている。漁協の役員は8名、職員は管理部門に1名の小規模漁協で、漁協自営の大型定置網2統、組合員個人の小形定置網14統が水揚げの大半を占めているほか、磯根資源のサザエ、ヒラメ、マダイの水揚げもあり、放流事業も熱心に取り組んでいる。

平成4年度の水揚げ高は1,592トン、金額にして182,127千円、1世帯当たりの生産金額は8,279

千円と京都府下でも安定した漁業経営を営んでいる。

また、漁協では、組合員の所得の平準化を図るため、毎年9月に共同漁業権内に設置する小型定置網の22漁場を輪番制で行使する処置をとっているとのことである。

漁獲物の販売方法は、漁協が一元集荷し京都府漁連のセリに上場するため漁協は漁連までの搬入業務を行うだけである。

毎週土曜日を定期休漁日、第2、第4日曜日も漁連市場が休みの関係で休漁にしており、「人と魚を休ます運動」に取り組んでいる。資源と魚価安定のためには休漁が一番との組合長説明には資源管理の意識改革が進んでいることが伺えた。

7. アオリイカの資源管理に取り組んだ経緯

京都府では22漁協の内、アオリイカを漁獲対象にしている漁協は5漁協で定置網に入網するイカを漁獲している外、小型船外機船での曳釣も僅かながら行っているとのこと。

成生漁協では、定置網（大型、小型を含む）の漁獲金額182百万円の内25百万円がアオリイカの漁獲金額である。

操業方法は大型定置網が午前6時～午前9時までの操業時間で、その後夫婦で小型定置網の操業を行っている。

しかし、小型定置網に入るアオリイカの大半は、外套サイズが5cm程度の小型イカが多く1尾約10円で販売され、資源のムダが多いことが以前から指摘されていた。

そこで、京都府海洋センターがアオリイカの生態調査を実施したところ、成長が早く、1年で親イカになり資源管理をすれば、イカ資源が増える、サイズの大きいイカを漁獲することによって、漁獲金額が増大することがわかり、国、県、の助成を受けて資源管理型漁業の種類にアオリイカを選定した。

◆海洋センターの標識放流調査概略は次の通り。

① 5月中旬南からの北上群が京都府の岸近くの

ホンダワラ等藻場で産卵する。兵庫→京都→福井→石川→富山と日本海を北上しながら産卵し30cmサイズの大きい親イカは富山で多く漁獲される。

② 稚イカは南下しながら、8月には5cmサイズの小型イカが京都の定置網に大量に入網して1尾10円程度で販売される。

③ 9月には10cmサイズとなる。

④ 10月には20cmサイズとなり2,000円/kgで販売される。

⑤ 11月には20～30cmの大型イカが漁獲されて2,000～3,000円/kgとなる。

⑥ 12月の中旬まで漁獲されるが、その後は九州方面に南下し、5月中旬には再度親イカに成長して産卵群が京都の近くに出現することである。

8. 資源管理の取組み状況

成生漁協としては、8月、9月の小型定置網で入網する価格の安い10cm未満の小型イカを保護するため、小型定置網の休漁について組合員と協議したが、9月の台風シーズンにキジハタが大量に漁獲されることから、9月の陸揚げ休漁はできないとの理由で8月の1カ月間を禁漁にした。

禁漁時期でもほとんどの組合員が組合自営の大型定置網2統の乗組員給与として20万円支給されるため生活には特に影響はない。

9月以降でも、小型定置網の金庫網の目合を現行10節から、7節に大きくして小型イカは逃がす方法を検討し平成6年から実施することになっている。

資源を増やすために、春（5月）産卵に回遊してくる親イカを定置網で採捕し、囲い網に入れてシバ（椎の木）に産卵させて5cmサイズの稚イカにしてから放流する計画である。

海上での囲い網方式は、府海洋センターと協力してどの程度のサイズが放流効果が高いかを確認するための試験も同時に行うとのこと。

京都府海洋センターでは陸上イケースでの産卵に

成功しているようであるが、囲い網で放流サイズになるまでの活餌をどう確保するかが課題のようである。

さらに、静岡県伊東市漁協での先進地視察事例を参考に、水深10mの海底に産卵礁（椎ノ木シバ）を設置し、自然産卵を促す方法で資源の増殖を図る方針である。

その他、成生地区では、海洋汚染防止対策として、合成洗剤の追放運動を漁協婦人部が積極的に行っており、平成5年度からは、漁村集落環境整備事業を導入して、下水道の整備と浄化槽の設置による海域の汚染防止、藻場の育成を地域ぐるみで取組んでいた。

9. 所 感

この視察の目的である資源管理の推進体制の面では、京都府の場合アオリイカを対象に漁獲している5漁協のうち、2漁協を選定して地先資源培養管理型漁業に取り組んでいるが、漁協、漁業者の資源管理に対する意識の高さ（サザエ、ヒラメ、マダイ等の放流の経験）に裏打ちされた「漁業者自らが漁場を守り、資源を将来につなぐ」との組合長の言葉に代表されるように地域が一体となった取り組みが展開されていることには関心させられた。

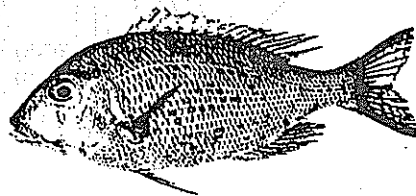
また、他人を批判するのではなく、自らが実践することによって他地区漁協にも波及させていきたいとの姿勢は真の「海の上の協同運動」ではないかと思った。

（一人は万人のために、万人は一人のために）

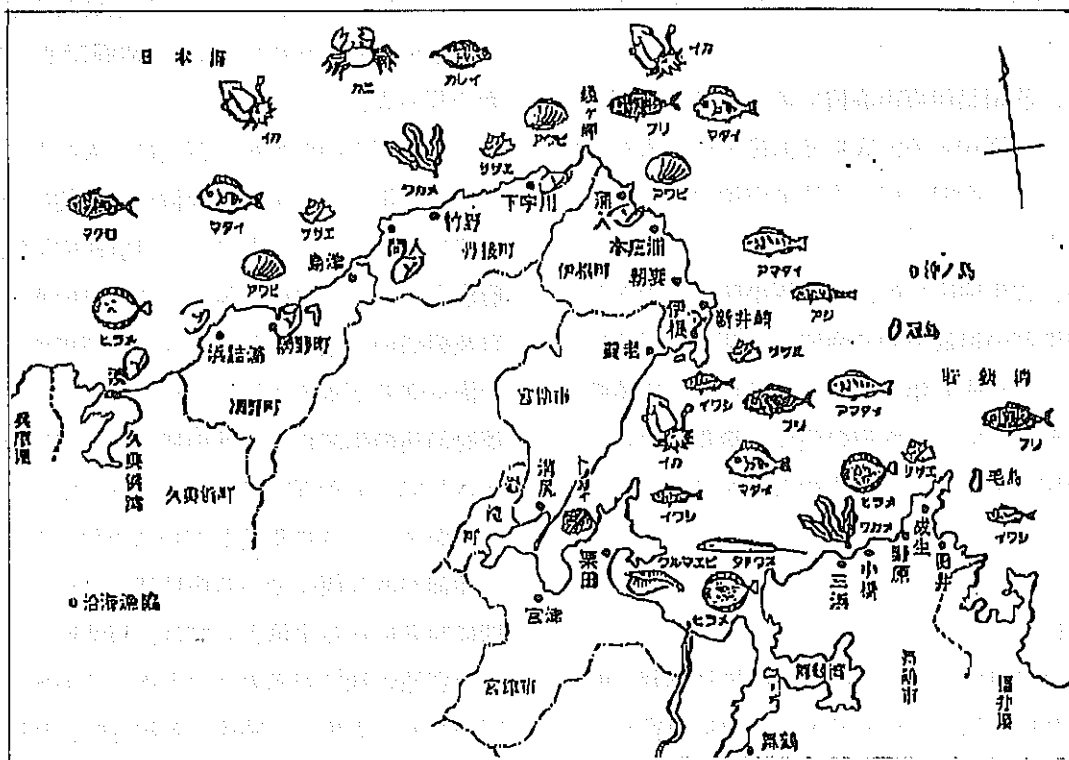
管理方策については、漁協が自主的に管理方針を決めているが、それには、試験研究機関である府海洋センターの生態調査、陸上での水槽実験、普及組織の漁業者に対する意識改革指導、舞鶴市の海を守る下水道事業、一元集荷を行っている京都府漁連の生産量、金額の把握等、連携が十分生かされていて管理方針がしっかりしていることで事業がスムーズに進行していると思った。

沖縄が取り組んでいる広域型のソデイカ資源管理に参考になる事例としては、京都府がズワイガニの資源管理で若齢ガニの入網する海域の1カ月間の禁漁を実施し、関係する福井県、兵庫県にも協力依頼等呼びかけを行っている事例は、鹿児島県や他県の漁業者の入漁問題、漁期規制に取り組む上で大変参考になった。

最後に、年度末で多忙の中、視察交流を快く受け入れて戴きました京都府水産事務所（普及部）をはじめ、成生漁協の水嶋敬次組合長には衷心より御礼申し上げ視察報告と致します。

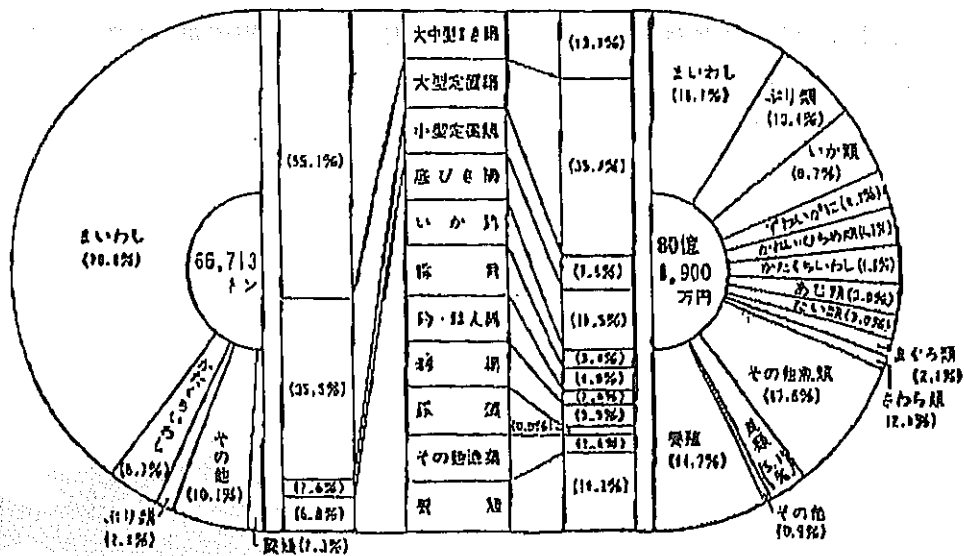


1. 京都の海・おさかな地図



京都の海では沿岸漁業が盛んで、ブリ、タイ、マグロなどの中高級魚とともに、イワシ、アジ、イカなどが漁獲されています。

2. 1991年（平成3年）の京都府の漁獲量



1991年（平成3年）の京都府の漁獲量は66,713トンで、金額にして80億1,900万円となります。このうち最も漁獲量が多いのはマイワシで、全体の約80%を占めています。

この年、日本では998万トンの漁獲があり、京都府の漁獲量は、全国（39都道府県）で32番目となっています。